



株式会社不動テトラ

2022年3月期第2四半期決算説明会

2021年11月30日

イベント概要

[企業名]	株式会社不動テトラ
[企業 ID]	1813
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2022 年度第 2 四半期決算説明会
[決算期]	2021 年度 第 2 四半期
[日程]	2021 年 11 月 30 日
[ページ数]	38
[時間]	13:30 – 14:15 (合計：45 分、登壇：43 分、質疑応答：2 分)
[開催場所]	103-0026 東京都中央区日本橋兜町 3-3 兜町平和ビル 3 階 第 3 セミナールーム (日本証券アナリスト協会主催)
[会場面積]	145 m ²
[出席人数]	20 名
[登壇者]	3 名 代表取締役社長 奥田 眞也 (以下、奥田) 取締役常務執行役員土木事業本部長

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

細坂 晋一郎（以下、細坂）
取締役常務執行役員管理本部長
北川 昌一（以下、北川）

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



登壇

司会：みなさま、こんにちは。定刻となりましたので、ただ今から、株式会社不動テトラ様の IR ミーティングを開催いたします。

最初に、会社からお迎えしている御三方、ご紹介申し上げます。

代表取締役社長、奥田眞也様。

奥田：奥田でございます。よろしくお願いいたします。

司会：取締役常務執行役員土木事業本部長、細坂晋一郎様。

細坂：細坂でございます。よろしくお願いいたします。

司会：取締役常務執行役員管理本部長、北川昌一様。

北川：北川でございます。よろしくお願いいたします。

司会：本日は、奥田社長様からご説明をいただき、お話が終わりましたら、質疑応答の時間とさせていただきます。それでは奥田様、よろしくお願いいたします。

奥田：ご紹介いただきました、奥田でございます。本日はお忙しいなか、当社の 2022 年 3 月期第 2 四半期の決算説明会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、みなさまには日頃から当社の社業ならびに IR 活動にご理解を賜りまして、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

コロナの感染状況、ずいぶん良くなってまいりましたが、しっかりと感染予防に配慮しながらの説明会をやらせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



(ご説明資料)

● 2022年3月期（連結）第2四半期 決算説明会

【目次】

1. 全社業績
2. セグメント別業績
3. 主な完成工事と受注工事
4. 持続的成長に向けた投資
5. 土木事業について

(ご参考資料)

● 2022年3月期 第2四半期決算短信（連結）

● 2022年3月期（連結）第2四半期決算補足説明資料

● CSRレポート

1

まずお手元に配布させていただきました、資料のご確認をお願いします。

本日使います決算説明会の資料、決算短信、補足説明資料、2021年のCSRレポート、以上をお手元に配布をさせていただいております。

まずは私から、第2四半期の決算内容についてご説明をさしあげたあと、例年、第2四半期の決算説明会の場所で、私どもの事業を順番に紹介をさせていただいております。

本日は土木事業につきまして、土木の責任者であります、細坂取締役常務執行役員から、私の決算説明のあとに、土木事業について、みなさまにご紹介をさせていただきたいと考えております。では、よろしく願いをいたします。

まず、第2四半期、当期の結果についてご説明をさしあげます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

◆ 業績結果

(単位：億円)

	2021.3月期	2022.3月期	前期比
	第2四半期	第2四半期	
期初手持ち受注高	768	700	▲68
受注高	282	301	19
売上高	309	323	14
売上総利益 (率)	52.5 (17.0%)	52.0 (16.1%)	▲0.6 (▲0.9%)
販売費及び一般管理費	33.2	38.0	4.8
営業利益 (率)	19.4 (6.3%)	14.0 (4.3%)	▲5.4 (▲1.9%)
営業外収支	0.1	0.3	0.2
経常利益	19.4	14.3	▲5.1
特別損益	▲0.4	▲0.2	0.2
法人税等	6.5	4.6	▲1.9
親会社株主に帰属する 四半期純利益	12.5	9.5	▲3.0

(受注高・売上高)

連結子会社の増加から、
受注高は301億円（前年同四半期比6.6%増）、
売上高は323億円（前年同四半期比4.4%増）と
それぞれ増加しました。

(営業利益)

主に土木事業での工事採算性の低下や
販売費及び一般管理費の増により
14.0億円（前年同四半期比27.7%減）と
減益となりました。

(親会社株主に帰属する四半期純利益)

営業利益の減少に伴い
9.5億円（前年同四半期比24.1%減）と
減益となりました。

2

受注高約 300 億、売上高 323 億で、前年実績に比べまして若干の増で上期の着地をしております。

売上総利益につきましては 52 億と、昨年より若干少ない、減収という結果でございます。

売上が増になった割に、利益率が若干低下している。やはり少し土木事業の工事内容が、前期はかなり、前期末に竣工を迎える大きな工事がたくさんございましたので、設計変更等でかなり利益が増えるという結果で終わりました。

今期は前期とは逆に、期内に竣工しない大きな工事が来期、再来期に続きますので、初めの段階ということで、なかなか設計変更増という期待が薄うございますので、その分少し土木が利益面で苦戦をしたという結果でございます。

ほぼ、売上総利益が変わらない現状で、営業利益は 5 億、前期よりも少なくなっております。これは前中計から積極的に設備投資、人材への投資、開発への投資、あるいは戦略面での投資も続けております。そういったことで少し販管費、一般管理費が前期に比べて、15%から 20%増えていることの影響も出ております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

ただ、このあたりについては少し売上が増えるだろうと、カバーをしたいと計画をスタートしましたが、なかなか売上が少し、工事の着工遅れ、あるいは受注時期のずれ等によって、思ったほど伸びなかったため、少しカバーができなかったのも一因でございます。

結果的に、最終的には、純利益も3億、前期よりショートということで上期を着地をしております。

受注・売上の5ヶ年推移

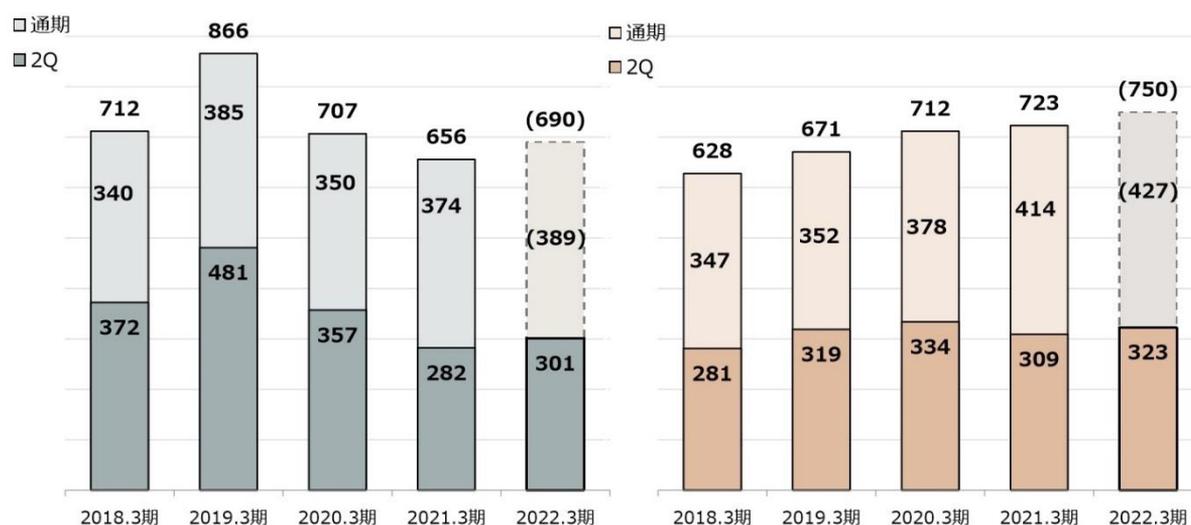
※見通しについては（ ）書きにしております



株式会社 不動テトラ

◆ 受注高 (億円)

◆ 売上高 (億円)



3

過去5年の受注、売上、あくまでも今期につきましては最終の見通しでございますが、現時点、第2四半期での位置として、前期より少し受注、売上は伸びている状況での着地で、通期をまた見通しております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



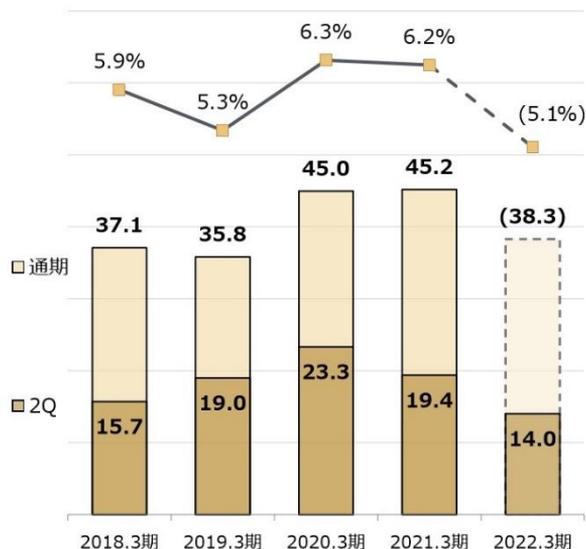
全社業績（連結）

※見通しについては（ ）書きにしております

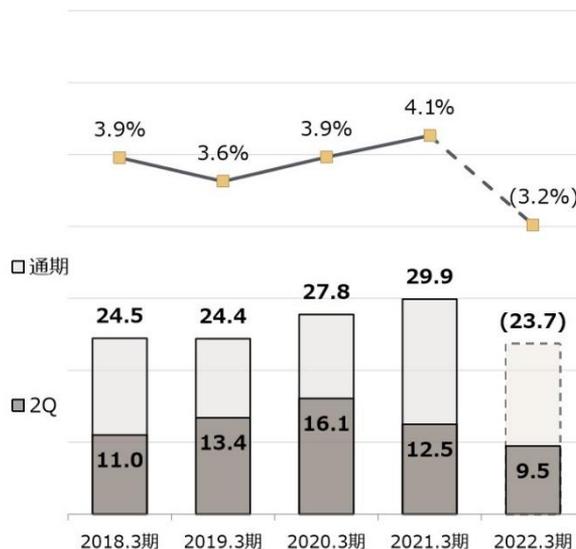


株式会社 不動テトラ

◆ 営業利益（億円） 営業利益率（％）



◆ 親会社株主に帰属する当期純利益（億円）



4

営業利益、純利益につきましては、先ほどご説明をしましたように、今期は、スタート時点の説明会でもご説明をさしあげましたように、少し前中計に比べては、手持ちの工事内容等の照査からも、利益的には少し落とした形でのスタートをさせていただいています。

結果的に今、見通しとしては、通期計画の数値の見通しと同じにしております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



セグメント別全社業績 2Q



株式会社 不動テトラ

(単位: 億円)

	2021年3月期	2022年3月期	前期比
	第2四半期	第2四半期	
受注高	282	301	19
土木事業	102	116	15
地盤改良事業	157	161	4
ブロック事業	28	22	▲6
売上高	309	323	14
土木事業	161	158	▲3
地盤改良事業	135	155	20
ブロック事業	14	14	▲0
売上総利益	52.5	52.0	▲0.6
(率)	(17.0%)	(16.1%)	(▲0.9%)
土木事業	19.2	13.9	▲5.2
(率)	(11.9%)	(8.8%)	(▲3.1%)
地盤改良事業	23.9	29.7	5.8
(率)	(17.7%)	(19.2%)	(1.5%)
ブロック事業	8.6	7.5	▲1.1
(率)	(60.1%)	(53.0%)	(▲7.1%)
販売費および一般管理費	33.2	38.0	4.8
営業利益	19.4	14.0	▲5.4
土木事業	9.2	3.2	▲6.1
地盤改良事業	6.7	9.4	2.6
ブロック事業	3.1	1.0	▲2.1

※全社計には3セグメント以外の数値及び連結調整額が含まれるため、3セグメントの合算値と全社計は一致していません。

(土木事業)

受注高は、116億49百万円（前年同四半期比14.5%増）と増加したものの、競争の激化から新規受注が思うように進んでいない状況です。売上高は、手持ち工事の進捗の遅れにより、157億94百万円（前年同四半期比2.0%減）と減収となりました。営業利益は、完成工事が少なく、工事採算性の改善が遅れたことにより、3億18百万円（前年同四半期比65.6%減）と減益となりました。

(地盤改良事業)

受注高は、コロナ影響で遅れていた海外工事や愛知ベースの子会社化による上乗せもあり、161億35百万円（前年同四半期比2.7%増）と微増となり、売上高は、海上工事の進捗や愛知ベースの子会社化による上乗せもあり、155億1百万円（前年同四半期比14.5%増）と増収となりました。営業利益は、増収に加え、保有船舶の稼働率改善により9億37百万円（前年同四半期比39.3%増）と増益となりました。

(ブロック事業)

受注高は、主力の型枠賃貸が災害復旧需要の一巡により、21億82百万円（前年同四半期比22.8%減）と減少しましたが、売上高は、主力の型枠賃貸の減収を商品販売で補い、14億21百万円（前年同四半期比0.6%減）とほぼ前期並みとなりました。営業利益は、型枠賃貸の減収と採算性の低下により、1億1百万円（前年同四半期比67.3%減）の減益となりました。

5

次に、第2クォーターについて、少しセグメント別にご説明をさしあげます。

先ほどご説明しましたように、土木事業において、受注は昨年度よりは少し多くなっております。ただ、もう少し本来ならば、計画では、大型工事を受注ということで見込みをしておったのですが、少し下期にずれたりしておりますので、その影響が少し売上、利益面に出てきております。

また先ほどもご説明しましたように、利益率という意味で前期までの実績よりは、今期竣工工事が少ないこともあり、落とした形での上期の結果になっています。

一方、地盤事業は、受注、売上とも前期実績を若干上回る。

利益も、大型の港湾での地盤改良工事などが売上に上がってきた関係上、利益率も高くなってきております。

また船舶の稼働も想定よりも良かったことで、船舶収支という意味ではプラスに好転をしたことで前期に比べまして、約2億5,000万から3億、営業利益で第2四半期は多い形での着地になっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



8

ブロック事業ですが、ブロック事業、型枠賃貸の受注が前期に比べて、少し出足が遅いこともありまして、その分の売上面での減少もあり、利益面で少し前期に比べてスタートが遅い形になっております。

ただ環境商品等で少しカバーをしておりますので、売上の面にはほぼ前期と同じ内容となっております。ただ、利益率が型枠賃貸に比べて、環境商品、低うございますので、その影響が利益面にも出てきた形でございます。

全社業績推移

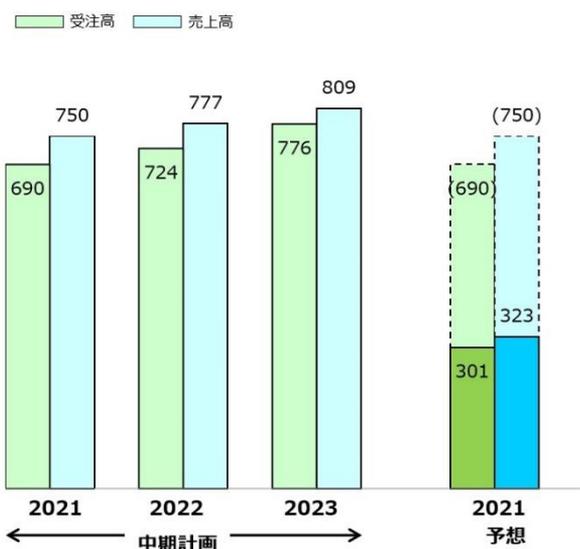
※見通しについては（ ）書きにしております



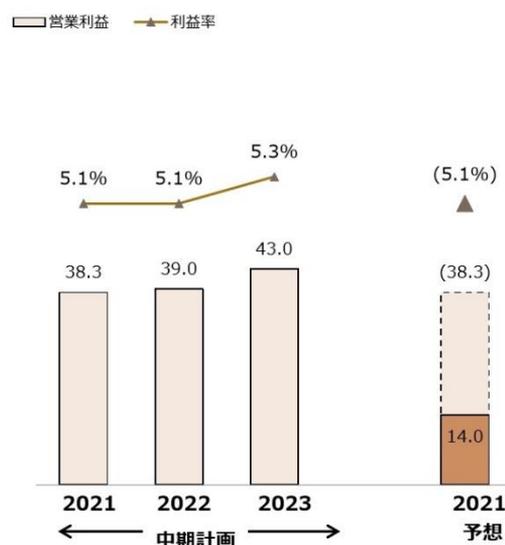
株式会社 不動テトラ

◆ 年度別数値目標 (単位: 億円)

【受注高・売上高】



【営業利益・率】



7

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



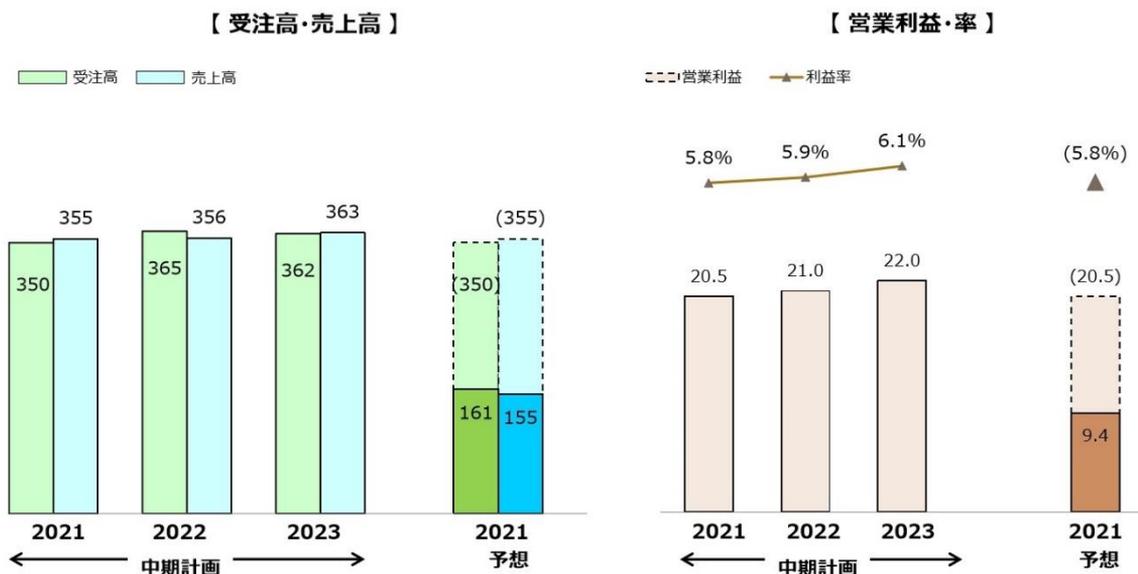
地盤改良事業

※見通しについては（ ）書きにしております



株式会社 不動テトラ

◆ 年度別数値目標 (単位：億円)



9

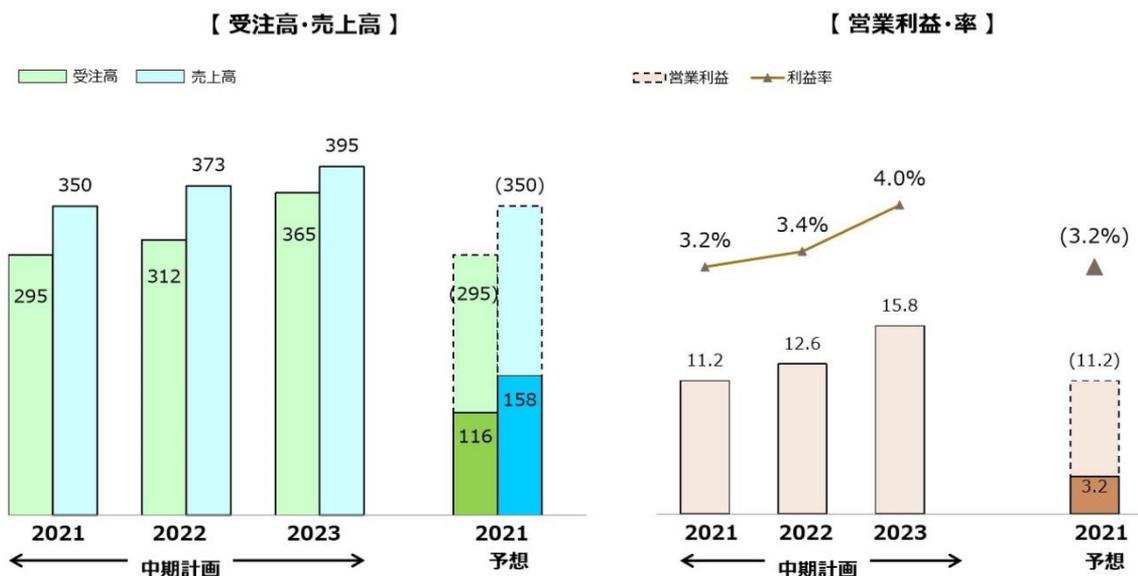
土木事業

※見通しについては（ ）書きにしております



株式会社 不動テトラ

◆ 年度別数値目標 (単位：億円)



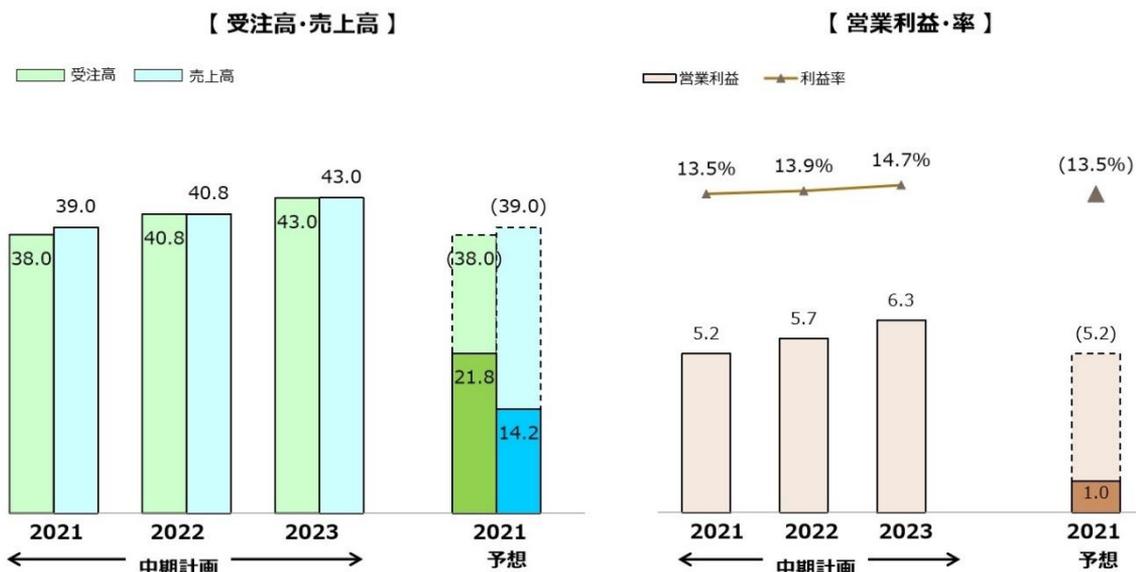
8

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



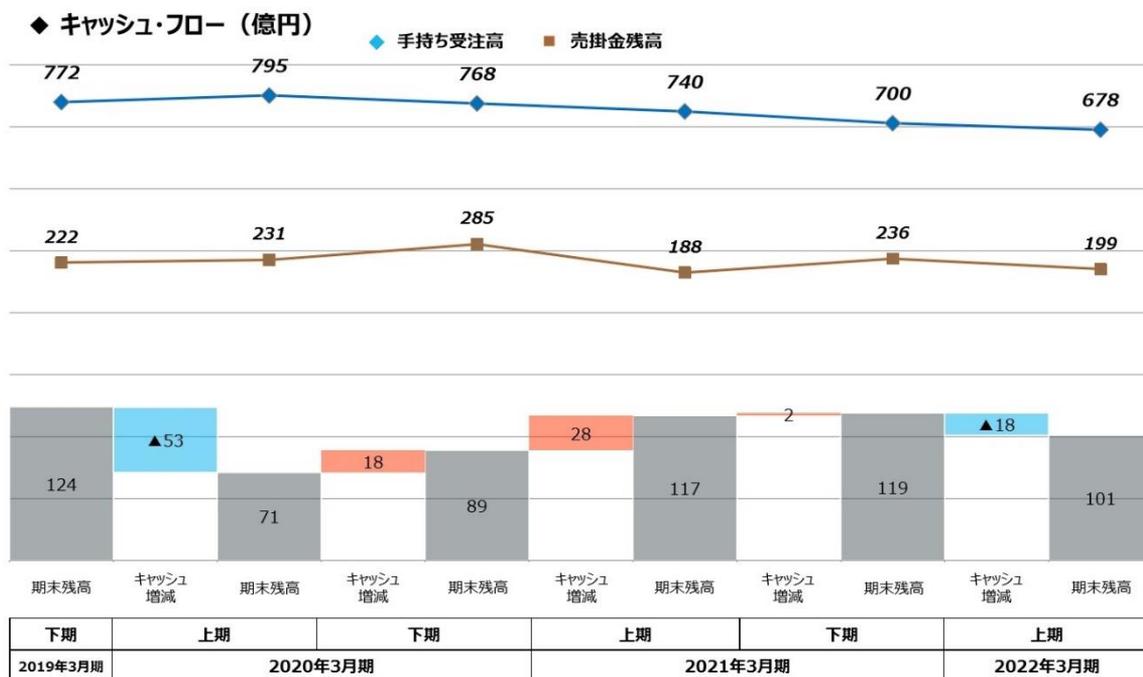
◆ 年度別数値目標 (単位: 億円)



今中計の計画に対して、今期の上期の結果と予想について、受注・売上・利益をグラフにしております。土木も先ほどご説明しましたものをグラフにして示させていただいております。地盤、ブロックとつけさせていただいております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



次にキャッシュ・フローにつきましては、現在上期の時点での数字になりますが、ほぼ前期の期末と大きな変動はございません。

約100億の現金、貯金の残高ということで、前期より少し減っておりますが、末より、ほぼ変わらないと考えております。

上期の中で、あとでご説明をしますが、米国の地盤改良の会社に出資といった形での投資もしてきていますが、それでも100億前後の預貯金残高で終わっております。

主な完成工事と受注工事



株式会社 不動テトラ

◆ 主な完成工事

工事名称	事業主体	施工場所
仙台塩釜港仙台港区域洋地区岸壁(-14m)基礎(改良)工事(その2)	国土交通省東北地方整備局(発注者:五洋・みらいV)	宮城県仙台市
王子給水所(仮称)配水池築造工事	東京都(発注者:成和リニューアルワークス)	東京都北区
北陸新幹線、福井大町高架橋	独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構	福井県福井市
令和元年度猪名川流域下水道原田処理場1・2系場内配管布設工事(No.3)	豊中市上下水道局	大阪府豊中市
夢洲2区造成工事(第1・2・3工区)	大阪市(発注者:五洋建設株式会社)	大阪府大阪市
南海P.W朝日新町物流センター地盤改良工事	南海プライウッド株式会社(発注者:タチバナ工業株式会社)	香川県高松市
渡川発電所一号発電機基礎コンクリート改良工事	宮崎県企業局	宮崎県日向市
令和2年度名瀬港(本港地区)岸壁(-7.5m)(改良)工事(第4次)	国土交通省九州地方整備局	鹿児島県奄美市

◆ 主な受注工事

工事名称	事業主体	施工場所
道央圏連絡道路 江別市 南6線北改良工事	北海道開発局札幌開発建設部(発注者:株式会社田中組)	北海道江別市
R3鹿島港外港地区岸壁(-12m)地盤改良工事その1	国土交通省関東地方整備局(発注者:日越建設株式会社)	茨城県鹿嶋市
R3鹿島港外港地区岸壁(-12m)地盤改良工事その2	国土交通省関東地方整備局(発注者:松崎建設株式会社)	茨城県鹿嶋市
R2東関東自動車道築地地区地盤改良その1工事	国土交通省関東地方整備局(発注者:キムラ工業株式会社)	茨城県潮来市
2021.新海面D東側(DM)①	東京都(発注者:東亜建設工業株式会社)	東京都江東区
金沢(福浦B)地区水際線護岸災害復旧工事(その10・被覆工)	横浜市港湾局	神奈川県横浜市
広域河川堀川改修工事(R3五条橋その4)	名古屋市長緑土木局	愛知県名古屋
令和3年度下関港(新港地区)岸壁(-12m)築造工事	国土交通省九州地方整備局	山口県下関市
宮崎トヨタグループ総合物流センター造成工事	エムティーホールディングス株式会社	宮崎県児湯郡新富町

12

上期に主な完成工事、載せさせていただいております。特筆するところを少しご説明しますと、完成工事の上から三つ目、北陸新幹線、福井大町高架橋。北陸新幹線、福井と敦賀の間の高架橋区間、当社が受けた区間でございます。

JVのスポンサーということで、最終的には90億を超える金額の工事での完成になっております。ただ、今期に上がってきていますのはわずかで、ほとんど進行基準で完成してきておりますので、ただこの工事が本上期に完成を迎えております。

また、特徴のあるのは、大阪の夢洲2区の造成工事。これは大阪の夢洲埋立地で、万博が開催される土地の地盤改良工事を第1工区、第2工区、第3工区、全て実施をさせていただいております。

また一番下に書いております、名瀬港、本港地区。この名瀬港につきましては、奄美ですけども、当社の実績、あるいは技術を評価していただいて、かなりの件数をやらせていただいております。これも、今年度の上期に令和2年度の工事を完成しております。

続きまして、主な受注工事も少し示させていただきます。この中で特徴があるということで、上から2番目のR3鹿島港、令和3年鹿島港。次も同じ令和3年鹿島港、その下の令和2年東

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



関東自動車道。実はこの3件の工事は国土交通省さんからのご発注ですが、当社が開発しました自動化施工を本施工でご採用いただいて、初めて投入した仕事となっております。

鹿島港と東関東自動車道。100%自動化までまだいっていませんけども、新聞発表もさせていただいておりますように、半自動化の状況での施工を国交省さんから認めていただいて、実際に初めて大型の施工機を、投入しております。

それと、真ん中へんにあります金沢、福浦地区は、横浜市の港湾局さんから直接いただいた工事ですが、災害復旧。2年前の災害で護岸が被災したところを当社のブロックにおいて、災害復旧するという工事を直接いただいて、当社の所有する船で施工をさせていただいております。

また、一番下にございます、宮崎トヨタグループ総合物流センター造成工事。民間の大規模工事になります。宮崎トヨタさんが集中的に物流をそこで管理する物流センターを作られる。私どもは土木の造成、舗装までの工事でございますけども、これを直接いただいて、現在施工を始めております。

こういった形で、今期上期の完成工事、受注工事。全てではございませんけど、特徴あるものを載せさせていただきました。

持続的成長に向けた投資

※見直しについては（ ）書きにしております



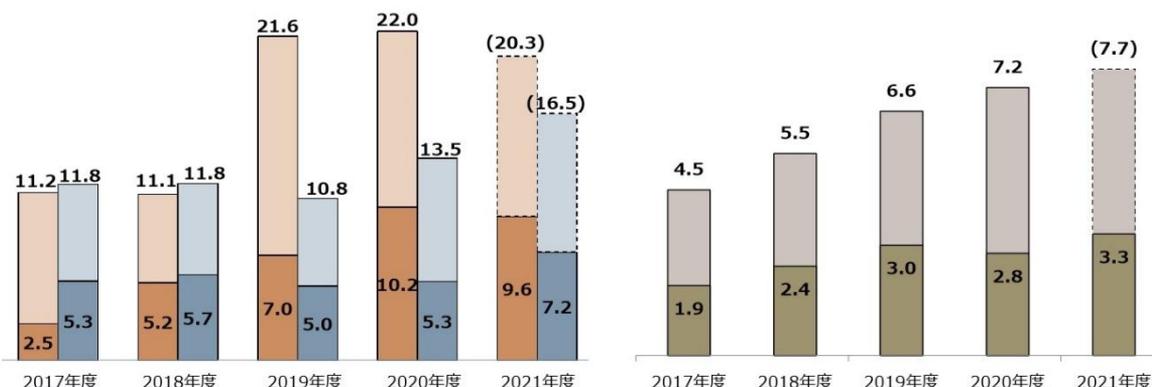
株式会社 不動テトラ

◆ 投資方針

持続的成長に必要な有形無形の経営資源への戦略的投資及び収益基盤の多様化に取り組むこととしており、M&Aや設備、研究・開発及び人的資本等に積極投資する

■ 設備投資 ■ 減価償却費 (億円)

■ 研究開発 (億円)



13

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



次に、前中計、後期から入りました本中計において積極的に将来に向けて、収益基盤の多様化や、生産性向上も含めて、いろんな面に投資をして、長期目線での経営をしていきたいというご説明をさしあげております。

今期につきましても、まだ上期でございますけれども、経営方針に則って、積極的に投資をしてきております。

まず、設備投資でございますが、前中計の終わり2年、20億を超える投資をしてきています。今期につきましても計画で20億を超える投資ということで、減価償却についても、投資を続けている限りどんどん増えていきますので、今期も、減価償却が見通しで16.5億と少し高い数字にはなってきています。

主に、こういったものを設備投資をとということになりますが、総合技術研究所、あとで少しご説明しますが完全リニューアルということで、ほぼ完成に来ております。

それと地盤改良施工機、更新あるいは新規投資。地盤改良の機械センター、古河にございますが、ここを耐震も含めてリニューアルということで、新築の新しいセンターにも着手をいたしました。それと、業務基幹システムにつきましても、新しく今期から開発して、導入をいたしました。

こういったことで、今期も20億という設備投資の計画をしております。現状上期は9.6億で実施です。

研究開発につきましても、生産性の向上あるいはICTを用いて、生産性向上につながる開発を続ける。あるいは次世代に当社の主力候補になる技術を開発する。そしてもう一つはやはり地球温暖化に対して当社の持てる技術で、どのように貢献できるかといったこと。こういう柱のもとに、今期も7.7億ということで、実はこれはもう、みなさんご存じかと思いますが、当社の売上高比率の1%を超えてきます。建設会社で売上高1%を超える開発費、研究費というのは、実はスーパーさんと、あと大手数社さんしかございません。

ですので私どもは、地盤改良、ブロックという、どちらかという自社で先に技術を開発して、みなさまにご理解いただいて、採用いただくというのを社業の方針にしておりますので、そういった意味で少し、建設業界の中では高い売上高比率の開発費になっているとご理解をいただければと思います。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



◆ 主な設備投資

■ 総合技術研究所	平面水槽新設	受入済	(P.17参照)
	中型断面水槽改修	受入済	
	太陽光発電	着手中	(P.18参照)
■ 地盤施工機	4台	受入済	
■ 東京機械センター	リニューアル工事	着手中	
■ 基幹業務システム		受入済	

◆ 主な研究開発テーマ

総合技術研究所	■ 海底鉱物資源の揚鉱技術の研究			
	■ グリーンインフラを用いた海岸保全技術の研究			
	● CO2による土壌の改良に関する研究			
土木	■ 除染土壌の減容化処理技術の開発			
	■ ICT施工（海洋）に関する管理システムの開発			
地盤	■ 地盤改良のICT生産性向上に関する技術の開発			
	■ 環境負荷を低減した地盤改良技術の開発			
ブロック	■ 数値解析に基づく波浪と構造物の相互作用の研究			
	■ ICTを活用した生コンクリート打設機の開発			
	● 消波・根固ブロックによるブルーカーボンに関する研究			

14

次のページに主な研究開発テーマ、挙げさせていただいております。

今後、地盤の中にあるかと思えます環境負荷を低減した地盤改良技術の開発、あるいはブロックの中にあります消波・根固ブロックによるブルーカーボンに関する研究、そして総合技術研究所でやっています CO₂による土壌の改良に関する研究、あるいはグリーンインフラを用いた海岸保全技術の研究、こういったことが、これからやはりカーボンニュートラル 2050 の実現に向けた当社としての貢献していける技術を開発していくことで、着手を始めております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

土木・地盤・ブロック環境の3事業の研究開発を担う総合技術研究所

総合技術研究所は、「海洋・水理」「環境修復」「地盤」「材料・構造」「基盤技術」の5つの研究グループと「知的財産」グループの計6グループで構成されています。社会や顧客のニーズに沿った「社会に貢献する新しい技術」を提供するため研究活動を推進していきます。



15

総合技術研究所、前にもご説明をしておりましたが、ほぼリニューアルは完成をしております。今年度 2021 年、平面水槽を新しく構築いたしました。それと、今年度いっぴいで太陽光発電を設置させていただきます。

このことによって、ほぼ3年がかりでやってきました研究所のリニューアル、完成を迎えると考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

地盤改良技術開発研究用「多目的試験フィールド」

地盤改良技術の開発スピードアップを図ることを目的に、総合研究所内に「多目的試験フィールド」を2017年に新設しました。本施設は大型土層を地中に構築したものであり、内部の土を入れ替えることで条件に応じた地盤を造成することができます。現場で用いる大型施工機を使った実験を行い、改良体の掘り起こし検証をすることで、効率的に開発が進められるようになりました。このフィールドを最大限に活用し、市場のニーズに迅速に対応した新工法を提供していきます。



得られた開発成果

実際の施工機械を使用して現場実験を行い、所定の改良効果・施工性能を有することを確認しています。

- ①大型地盤改良機で初めてとなる自動打設システム「GeoPilot®-AutoPile」(ジオパイロット・オートパイル)を開発し、2020年6月にプレスリリースしました。
- ②次世代の環境対応技術について、技術開発を行っています。
- ③既存技術についてもブラッシュアップを行い、付加価値の向上や適用性の拡大を行っています。



自動打設システム「GeoPilot®-AutoPile」

個別に少しご説明をさしあげます。

地盤改良の多目的試験フィールドについては、前回の決算説明会でもご説明をさせていただきました。こういった土を入れ替えながら、いつでも、その地盤あるいはその特徴に合わせて実際の機械でその場で試験ができる、開発ができるということで活用してまいりました。

このことで、先ほどご説明しました、国交省さんに、開発をしました自動打設システム、GeoPilot-AutoPile が現場でも使っていただけるようになってきております。現在も各工法のブラッシュアップや付加価値工法、あるいは新工法の開発に実験場を使っております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

長さ25m×幅10m×高さ1m



- 従来からある4本の断面水槽に加え、新たに「平面水槽」を導入
- 現地の海底地形や構造物の形状等を再現可能
- 防波堤等の構造物の配置検討や構造物端部の消波ブロックの安定性検討等が可能
- 国内外の大規模プロジェクト等に参画し、ブロック事業の技術力を積極的にアピールしていく

造波能力：規則波 波高H=30cm程度まで造波可能
不規則波 有義波高 $H_{1/3}$ =15cm程度まで造波可能

17

新しく平面水槽を実験場に上期に設置をいたしました。現状、4本の断面水槽、2次元水槽長水路4本を所有しております。それにこういった平面水槽を併用しながら、現場を再現しながら、自社のブロック、あるいは港湾の技術を実験しながら開発をしていく。

あるいは営業プロジェクト、大規模プロジェクトの実験にもお使いいただけるということで、最大、実際には30メートルぐらいの波を、このモデル化で縮小して再現することもできます。

ただ、30メートルの波が港に来るのは、通常そのブロックを設置するところでなかなかありませんけども、ほぼ全てを網羅できる実験施設とお考えいただければと思います。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

年間発電量：85,000 (kWh/年)



- 総合技術研究所の駐車場にカーポート自家消費型太陽光発電システムを導入
- CO₂削減効果
 - ・使用電力実績 159,000(kWh/年)；研究所全施設
 - ・予想供給電力量 71,000(kWh/年)；ロス率考慮
 - ・予想買電電力量 88,000(kWh/年)；再買電予定
→ 削減CO₂量：約39t
- 蓄電池との併用により、大規模停電時にも研究棟内の機能維持が可能（最大容量で蓄電された場合、常時使用電力の概ね1/2程度が使用可能）
- BCPの観点で本社代替拠点機能として期待できる

※太陽光発電で不足する電力については、再生可能エネルギーを買電することで、総合技術研究所で使用する電力の100%を再生可能エネルギーとなる予定である。

18

そして今年、年度末までに太陽光発電を、現在発注をいたしまして今、設置の工事に入っております。技術研究所の研究開発に用いる電気に関しては、こういった自然エネルギーを用いて開発をする。

自社でいろんな研究をするのにやはり CO₂を多く排出する、電力を用いるということは少しこれからの研究開発のテーマにそぐわない状況にもなっておりますので、こういった自然エネルギーを全て用いた研究所にする。

それと東京が地震等で被災した場合のBCPの代替拠点としても、この研究所は地盤的にもしっかりしていますので、活用できればという形で進めております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

海外戦略の一環としての米国投資(AGI)

米国で事業展開する当社の100%出資子会社であるFudo Construction Inc. (以下「FCI」) は、米国カリフォルニア州の地盤改良会社である Advanced Geosolutions Inc. (以下「AGI」) の保有株式の49%を取得し、資本業務提携契約を締結しました(6/2発表)。AGIは設計施工能力を有する技術志向の会社であり、これにより建設市場の規模拡張傾向が見られる米国での地盤改良工事の受注拡大を図っています。

この業務提携の結果もあり、今年8月からはFCIは米国オレゴン州ウッドバーン市において1件の地盤改良工事をAGIと共同で施工しました。アマゾンの大規模配送センターの基礎工事でAGIの設計施工案件です。

不動テトラグループでは、国内市場の成長性を踏まえ、海外事業の展開に注力しております。この資本業務提携により地盤改良部門における米国での営業活動を活発化し、海外事業全体の底上げを図って参ります。

商号	Advanced Geosolutions Inc.		
所在地	13 Orchard Road, Suite 105 Lake Forest, CA 92630		
代表者の役職・氏名	President/CEO: Juan Baez		
事業内容	地盤改良工事および関連エンジニアリング事業		
資本金	\$78,009 (約 850 万円) ※ 1US\$=109.00 円で換算		
2020年度売上高	\$29百万 (約 32億円)		
設立年月日	2004 年 7 月 14 日		
URL	https://www.advgeosolutions.com/		

19

それと、上期に戦略的投資ということで米国の地盤改良企業 AGI という会社の株を 49%、当社のアメリカの子会社が取得をいたしました。アメリカでの地盤改良の事業を拡大するという事で、バイデン政権になって、かなりそういった意味での投資も増えてきております。

その中で、AGI の持つ営業力、知名度、これに当社の保有する技術をミックスすることによって、アメリカでの当社の事業、あるいは AGI の事業も拡大できるのではないかと目論見での投資でございます。

実はあまりにも早い結果が出ておりました、6月に投資をしましたが、8月に Amazon の大規模工事を AGI と当社の子会社 Fudo Construction Inc. の JV で受注をいたしております。12月には、米国の決算ですので、当社の3月決算に寄与すると期待をしております。

これが写っております、6台の施工機械が AGI の機械と当社子会社の機械で施工をしている様子です。20 数億の仕事は約半年で施工をする形になっています。

また、ここにちょっとコメント、今回の受注例に入れられなかったのですが、インドネシアのスラバヤで、大規模な銅の製錬所のプラント事業がスタートしています。その工事につきましてプ

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

ラントメーカーさんから直接、設計施工という形で、当社とインドネシアの地元の会社とのJOという形で受注をいたしました。

当社が設計施工で、プラントメーカーさんからゼネコンを介さずに受けるということで画期的な受注になると思います。ただ、これから実際に設計をして施工していきますので、しっかりと納品して結果が出せるようにと考えています。これも25億を超える工事になっております。

人的投資



株式会社 不動テトラ

従業員数の推移

働き方改革の推進と業容の拡大・安定を目指して、採用を促進し、従業員を増やしています。

	2017	2018	2019	2020	2021
従業員数(連結)(人)	851	864	873	951	970 *9月末
新卒採用(連結)(人)	23	39	38	38	41

健康経営の推進

社員の健康は企業経営における最優先事項の一つであり、社長をトップの健康経営推進責任者として、健康保険組合や産業医・看護師、労働組合等と連携した健康経営企業内推進体制を整え、健康経営を実践していく健康経営宣言のもと、推進しています。

- 定期健康診断の受診率100%
- 二次検査受診率80%
- 生活習慣病などの疾病予防のための運動指導・栄養指導
- 職場における健康増進活動 等

健康経営宣言

当社不動テトラグループは、従業員の心と体の安全・安心および健康の確保は企業が持続的に成長するために必要な経営における最優先事項の一つであるとの考えのもと、従業員が心身ともに元気にやりがいをもって働ける職場環境を目指し、健康づくりを積極的に推進し、健康経営を実践していくことを宣言します。

2021年8月1日
株式会社不動テトラ
代表取締役社長 奥田 真也

「えるぼし」認定

「えるぼし」は、「女性活躍推進法」に基づき、行動計画の策定・届出を行った企業のうち、一定の基準を満たし、女性の活躍推進に関する取り組みの状況が優良な企業に対して、厚生労働大臣が認定するものです。当社は5項目すべての基準を満たしたことで、「認定段階3（3つ星）」の認定を受けました。



シニア層の活躍推進(社員の定年延長)

- ・社員の定年を60歳から65歳に引き上げ(60歳定年を選択できる選択定年制)
- ・66歳～70歳の間はシニア社員として再雇用制度を導入フルタイム以外の働き方(短時間、短日勤務)を選択可能

20

そして、私からは最後になります。

投資の一つとして、人に対する投資も積極的に、長い将来を考えた場合には、我々は建設業、どうしても技術と人は両輪でございます。採用もしっかり続けておりますし、健康経営ということで8月1日には、健康経営宣言もさせていただきました。

また、えるぼしについても、必要とされる5項目全ての基準を満たしていることで、認定段階3、3つ星の認定も受けました。女性の活躍推進に関してもしっかりと取り組んでおります。

また、4月1日、今期スタートにあたっては、社員の定年を65歳という引き上げ、60歳と65歳、両方選択できる定年制を採用いたしました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



ですので、65歳まで働いていただいて、そのあとも元気で働いていただける方がシニア社員という再雇用にも努めております。

こういった形で人への投資もしながら、現在、長期目標に向かって今期の上期が終了したとご理解をいただければと思います。私からは以上でございます。

引き続きまして、土木事業につきまして、細坂取締役からご説明をさせていただきます。

不動テトラの3事業



株式会社 不動テトラ

事業の柱



土木事業：一般土木工事業

インフラ施設の建設



地盤事業：地盤改良工事業の専門工事業

地盤の強化



ブロック事業：消波ブロックの型枠賃貸事業

波浪・侵食対策



22

細坂：改めまして、土木事業本部長をしております細坂と申します。ここからは、私から土木事業の概要についてご説明させていただきます。

弊社は地盤改良工事を中心とした地盤事業、テトラポットを代表とする消波ブロックの型枠賃貸業をしているブロック事業と、一般土木工事を行っている土木事業の三つの事業で成り立っております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

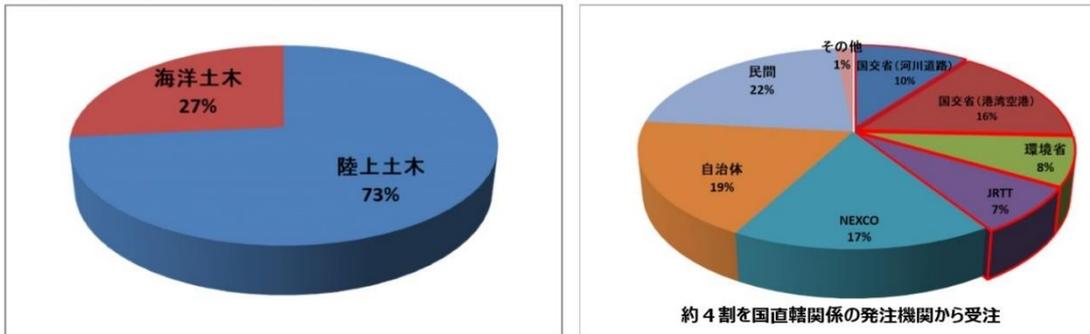


陸上土木と海洋土木の両方で多様な構造物を創造します



道路、鉄道、ダム・河川、上下水道、エネルギー施設などの陸上土木分野、港湾・空港、漁港、海岸、人工島などの海洋土木分野における豊富な技術と実績により、未来の社会基盤を拓きます。

事業構成 (直近5か年受注実績)



弊社の土木事業は、陸上から海洋まで、広い範囲を多様な構造物を築造しております。その構成は左、陸上土木が約7割。海洋土木が約3割。発注者別に構成を見ても、国直轄工事で約4割。それからNEXCO、自治体、民間工事でおおよそ2割ずつという内訳になっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

東北地方の太平洋沿岸を中心に大きな被害をもたらした東日本大震災から10年が経過しました。当社は、復興道路や河川・海岸・港湾・漁港・空港等の基幹インフラの復旧に全力で取り組み、これからも「豊かで安全・安心な国土づくりに」貢献してまいります。

当社が施工した主な震災関連工事



① 国道45号 野田地区道路改良工事
2018年11月～2021年3月竣工



② 鳴瀬川野蒜水門災害復旧工事
2014年4月～2017年2月竣工



③ 広田漁港災害復旧工事（岩手県）
2013年1月～2014年12月竣工



④ 相馬港本港地区防波堤（沖）（災害復旧）工事
2012年6月～2018年3月竣工



2001テトラ号によるテトラポッド据付

今年の3月で、東日本大震災から10年が経過しました。発災直後から、国や業界団体と協力し、私ども取り組んでまいりました。発災時に三崎漁港にいました弊社の起重機船、2001テトラ号と言いますが、東北の港湾に向け出港させ、小名浜港から順次、航路啓開作業に取り掛かりました。ちょうどこれは船を揚げているところでございます。

その他、代表的な施工実績を載せてあります。①が復興道路と位置づけられた国道45号線の工事でございますが、複数のトンネル工事、道路改良工事、それから下部工の工事を施工してきました。

②が河川工事でございます。歴史的な構造物と言われる野蒜水門の災害復旧工事の状況写真です。

3番目の写真が、漁港の復旧工事でございます。水産庁関連では、海岸堤防の工事をはじめ宮城県、岩手県ほか自治体の漁港工事を、災害復旧工事を行いました。

4番目に出ているのが相馬港の災害復旧工事です。ちょうど私どもの船が施工をしているところで、左側の写真が完成している写真でございます。

相馬港以外でも、東北太平洋沿岸の各港湾の施設。それから、釜石港や大船渡港の湾口にございませう、津波防波堤の災害復旧工事にも参加をしております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

◎事業方針・事業戦略

事業方針	長期安定性の確保 (受注、利益、人員) ～「守り」から「攻め」の経営へ～
事業戦略	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 事業規模・領域の拡大 ➤ 採算性の向上 ➤ 戦略的パートナーシップの構築 ➤ 研究開発/設備投資 ➤ 採用/教育/働き方改革への対応 (中堅・若手技術者の早期戦力化)

◎事業展望

土木事業は、既存の事業領域である陸上土木・海洋土木及び民間土木の基盤を固めるとともに、インフラ老朽化対策等のリニューアル事業への進出及び環境関連の新工法開発による事業領域の拡大を目指します。
また、経営資源 (ヒト) への積極的な投資により継続的に安定した収益確保を図ります。



25

ここで新中期経営計画に触れておきます。

2017年度に、土木事業の規模感は300億弱の数字でございました。それを10年かけて、400億規模まで拡大しようと目標を持ってスタートをしております。長期安定性の確保、ちょっとわかりにくいですが、受注利益、人員を安定的に確保して経営をしていくことを事業方針にしまして、五つの事業戦略を持って、目標達成に向かうということでスタートしております。

2018年から2020年までの第1ステップの中期計画は3月で終わりました、今は第2ステップに入ったところでございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

新東名高速道路 滝沢川橋他1橋（下部工）工事（施工中）

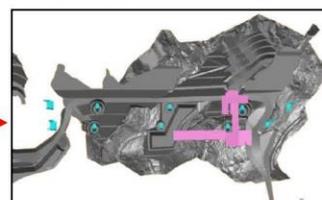
工事延長約802m
 （土工区間L=約187.5m 橋梁区間L=約614.5m）
 （下部工）橋台 4基
 橋脚 8基
 基礎工 大口径深礎 Φ8.5m~11.0m
 （土工） 道路掘削 140,000m³



ICTを用いた施工計画と測量業務への活用



滝沢川橋完成イメージ



3次元設計データ

レーザースキャナーによる3次元起工測量を実施し、3次元地形データより構造物データ、道路線形データを合わせて3次元設計データを作成。

26

ここからは、施工事例を ICT という見地から何件かご紹介いたします。

この工事は新東名の滝沢川橋工事でございます。

見ていただく通り、非常に急峻な場所に高速道路を設置する工事でございますが、厳しい条件下で施工をしている、下部工ほかの工事でございます。レーザースキャナによる3次元起工測量を行いまして、地形、道路線形、構造物データを重ね合わせて、3次元設計データを作成して、平面図だけではわかりにくかった、気づきにくかった干渉部分や、変更が必要な箇所が明確となり、現在は安全に円滑に施工を進めています。

ほぼ作業はここに、わかりにくいですが構台が設置されておりまして、ちょうどこの上からの資材の上げ下げを行いながら施工している状況です。

サポート

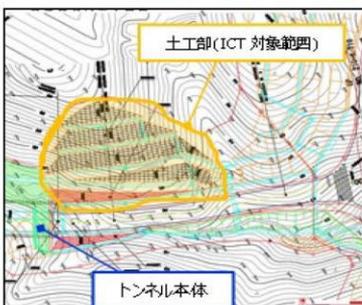
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

平成31年度 設楽ダム瀬戸設楽線5号トンネル工事 (施工中)

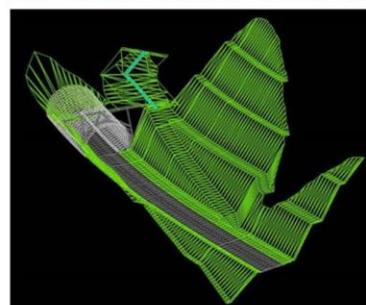
工事延長 L=620m
 NATMトンネル掘削延長 L=398.0m
 道路改良1式、法面工1式 他

ICT土工 (発注者指定型)

現況地形の3D測量、3D設計データの作成、ICT建設機械による施工および出来形管理を実施しています。



対象範囲(平面図)



3D設計データ

27

続きまして、2件目が中部地整発注の設楽ダム。瀬戸設楽線5号トンネル工事。これも土工部分に3次元設計データを作成し、ここではICT建設機械による施工を行っております。

施工管理、出来形管理に非常に有効で、非常に現場も合理的に進捗をしている。ちょっと見ていただきますと、ご存知かどうかかわからないですけど、こういうところに丁張りという定規をつけながら施工するんですけども、そういったものはほぼ必要なく、結果はこういった3次元の図面で現れてくる工事でございます。

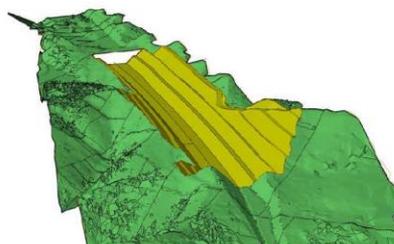
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

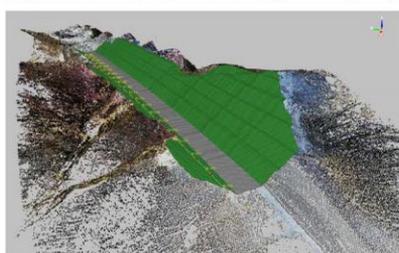
国道45号 野田地区道路改良工事

道路改良（野田工区）
 掘削工 V=311,800m³
 路体盛土工 V=35,200m³

道路改良（玉川工区）
 路体盛土工 V=136,490m³



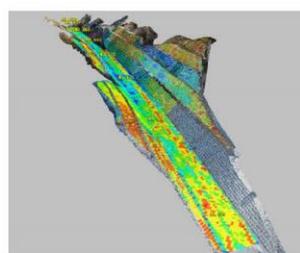
レーザースキャナによる起工測量を元にした3次元CADデータから最終切土形状の検討や、実測データを元にした設計図面の変更を実施



切土設計断面入り点群データ（ICTバックホウ用データ）



ICTバックホウによる盛土部法面整形状況



レーザースキャナによる切土区間出来形データ（ヒートマップ）設計との誤差を色分けして表示

三つ目が、国道45号の野田地区道路改良工事です。これは東北地整発注の工事でございます、施工延長の長い、非常に長い道路の工事でございます。これも三次元データから、切土です。盛土の土量管理や出来形管理を行い、設計図書の誤差を明確にすることで、設計変更等の協議も順調に進んだという工事でございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

令和元年度鹿児島港（鴨池中央港区）臨港道路橋脚P 8 下部工工事

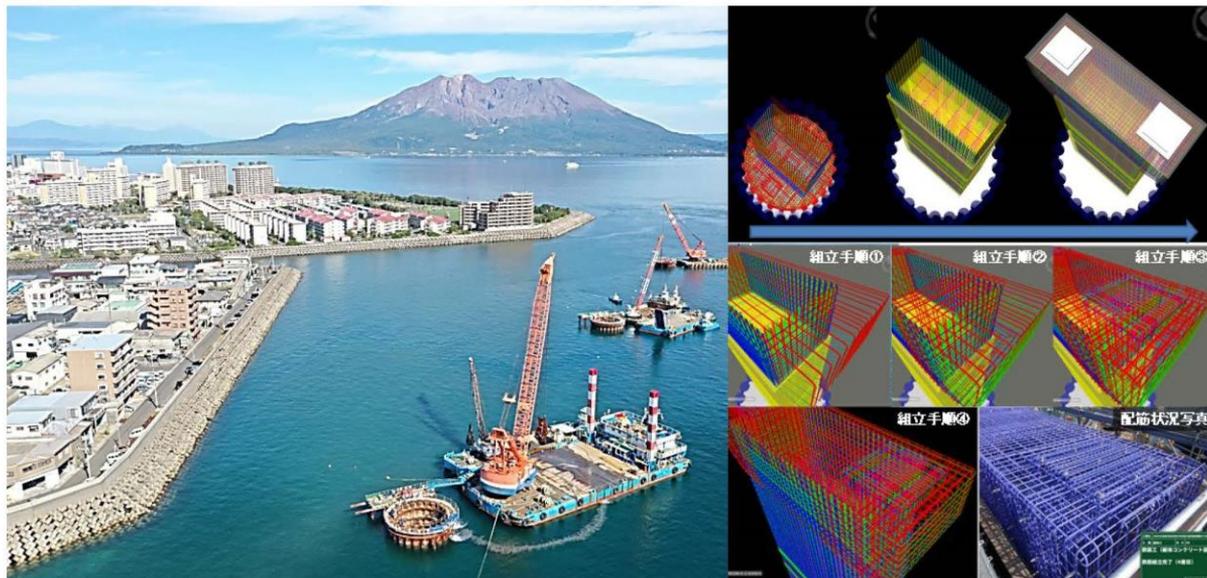
橋梁下部工

浚渫工 浚渫 1,609m³

P8 橋脚（仮設工、基礎工、躯体工）

BIM/CIMモデルの活用

4Dシミュレーションを用いて、進捗状況、組立手順および部材間距離の確認等、細部構造や施工手順について情報共有することにより、現場における生産性向上を図ることができました。



29

最後が海洋工事です。これは、鹿児島港の臨港道路の橋脚を築造したものでございます。3次元データに時間軸をプラスして、施工手順やその都度、部材の位置関係の把握を容易にすることで、関係者が共有することで生産性の向上に寄与したものでございます。鹿児島です。これは九州地整の発注工事でございます。

サポート

日本

03-4405-3160

米国

1-800-674-8375

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス

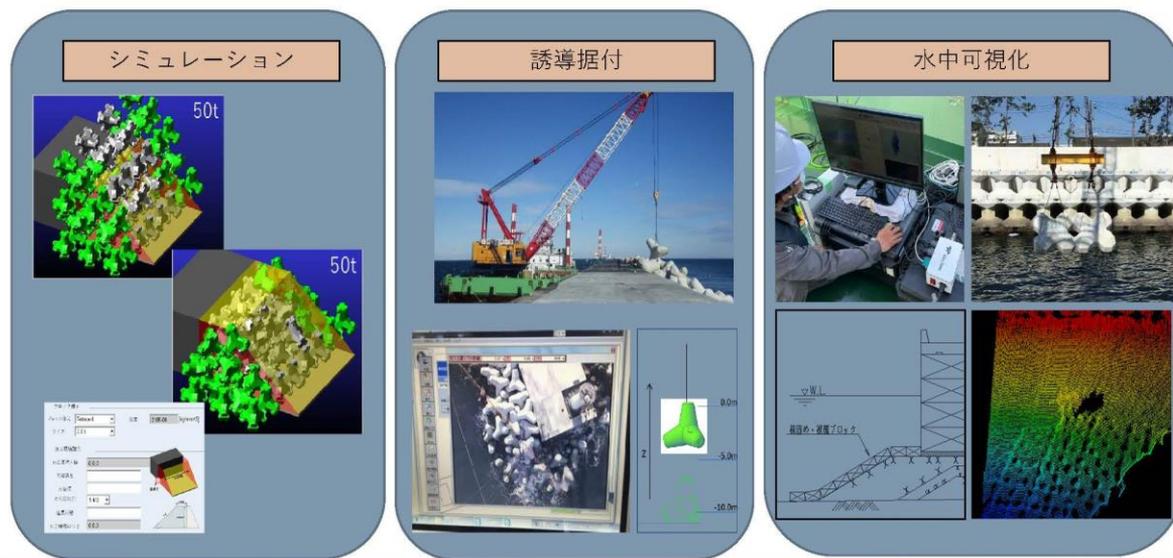
support@scriptsasias.com

ICTを活用した消波・根固ブロック据付手法の開発

機構解析ソフトによる据付シミュレーション
 (消波工3次元モデリングシステム KTK-200003-A)
 と、水中可視化技術を用いたブロック個々の据付位置への誘導
 据付手法を開発中


効果

- ① 出来形精度の向上
- ② ブロックの安定性の向上
- ③ 施工の効率化



さらに、研究開発に関わる案件を紹介いたします。

ブロック事業部と共同して進めている案件で、ブロックの据付手法を開発しています。現場測量データから、ブロック個々の据付位置の座標を出して、誘導する手法で、水中可視化技術を用いております。

これがちょうど現地を測量したデータで、ここに開いたところにブロックを据えていくようなことですが、これは現地の写真でございます。これはクレーンのブームから、上からカメラで見ている状況ですが、こういったブロックを所定の位置にクレーンを誘導していくということでございます。

さらに、水中においてはこういった可視化技術でブロックが据えていく、据わっていく箇所というのを座標で出し、陸上のクレーンオペレーターからは見えませんから、そこにこういったパソコン画面上で、こういう絵が出てくるような技術でございます。

安全性、施工精度、効率化に寄与すると私どもは考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

土壌汚染対策

◎ 除去土壌等の減容等技術実証事業による減容化技術

- 本事業の公募は、委託先の中間貯蔵・環境安全事業(株) (J E S C O) を通じて行われました。応募のあった17件の実証テーマの中から有識者により構成される委員会の審査を経て、9件が選定されています。
- 当社の「分級処理で発生する濃縮物等に対する減容処理技術」は、令和3年度除去土壌等の減容等技術実証事業（その5）として採択されました。
- 現在、基礎実験を弊社総合技術研究所で実施しており、11月中旬からは福島県内で放射性土壌を用いた実証試験を実施する予定です。



◎ 重金属浄化技術 乾式磁力選別技術

- 重金属汚染土壌（人為由来、自然由来）に特殊鉄粉を混合し、重金属を反応吸着させたあとに、鉄粉を磁性分離することで汚染物質を除去し、非磁着物を浄化土として再利用する技術です。
※特許出願中

それから土木事業部の中に、環境修復事業のための環境ソリューション室というのを設置しております。地盤事業部の協力を得ながら、土壌汚染対策を中心に研究開発を進めています。

ここにある減容化技術は、福島第1原発周辺の放射能で汚染された、大量に発生した土砂の減容化のために、環境省の外郭団体を通じて公募がなされました。17件の公募があったと聞いておりますが、その中で委員会の審査を経て、私どもの提案も採択されております。

基礎実験は、先ほどご紹介があった土浦の総合技術研究所で行い、11月中から現地での実証実験に着手をしております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

土壌汚染対策

◎ 土壌還元法 鉄粉と微生物を用いたハイブリッド型の分解技術

➢ 土壌還元法は鉄系還元剤による化学的反応と微生物による生物学的反応を複合化させた弊社独自の原位置浄化技術です。

○混練法（水平混合型、縦型攪拌型）

- ・土壌（飽和・不飽和）、地下水ともに浄化可能です
- ・シルト・粘土層の浄化も対応しています
- ・高濃度汚染の浄化も可能です

○注入法

- ・稼働中工場内での浄化が可能です
- ・透水性のよい帯水層の土壌・地下水に対応しています

◎ 重金属浄化技術 バイオレメディエーション（シアン対応Ver）

➢ 現地のシアン分解菌を増殖させて原位置浄化を行うバイオ技術です。

※本技術はH.22年度 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 共同研究事業株式会社 不動テトラ、新日鉄住金エンジニアリング株式会社、大阪ガス株式会社の3社で開発致しました。

（特徴）

- ・小規模設備のため稼働中の工場でも適用可
- ・比較的透水性のよい帯水層の土壌・地下水に対応
- ・比較的低濃度汚染に対応



その他、重金属が鉄粉に付着する性質を利用しまして、重金属の浄化に関わる技術も今、開発中がございます。

さらにこのページにあるように、これは原位置、その場所ですけれど、原位置で鉄粉と微生物を用いた土壌還元法という方法であったり、特別にシアンに対応する分解菌という菌を増殖させて行う浄化技術も開発をしております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

若手技術者の早期戦力化

土木事業の持続的成長には若手技術者の早期戦力化が重要な課題となっています。若手技術者を対象に、施工管理基礎技術の集中研修及び「土木施工管理技士」資格の早期取得のための支援を行っています。

新入社員特別研修

- ◆ 施工現場にけるOJTを効果的・効率的にするため、施工管理に必要な基礎技能・技術・知識について集中的に研修を実施
 - ・ 施工管理基礎（発注図書、管理基準、写真管理、安全管理）
 - ・ 実地研修（コンクリート打設・測量・品質出来形管理）
 - ・ 技術基礎研修（コンクリート・構造・土質力学）
 - ・ OA操作（CAD、eYACHO、デジタルポート）



「土木施工管理技士」資格取得支援

- ◆ 目標：28歳までに「全員1級取得」 早期1級合格のため2級も全員受検
 - ・ Webによる経験記述問題添削指導、筆記式問題の課題提出・指導
 - ・ 社内模擬試験、有料模試試験を活用した上司による個人別指導



2021年度 土木施工管理技士 受検状況

1級		
1次検定	7/4実施	合格率 95%
2次検定	10/3実施	1/14合格発表予定
2級		
1次検定	6/6実施	合格率 100%
2次検定	10/24実施	2/2合格発表予定

33

次に、土木事業の持続的な成長には若手技術者の育成が重要でございます。土木事業部では、部内に教育育成のための専門部署として、施工技術支援室を設置しています。

新入社員に対しては、施工管理に必要な基礎的な知識、技術を、集中的に研修を行い、現場に送り出しております。

また、28歳までに1級取得を目標に教育・指導を行うとともに、場合によれば、個人別に指導も行うようなことをやってきておりまして。これが今年の合格率ですけれども、徐々に効果も出てきている状況でございます。

コロナ禍で今年はいったりリモートでの教育が中心だったのですが、最近ようやくこういったある程度人を集めての教育活動も行っているということでございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

環境性能の優れた起重機船（兼浚渫船）の建造

2025年3月完成予定

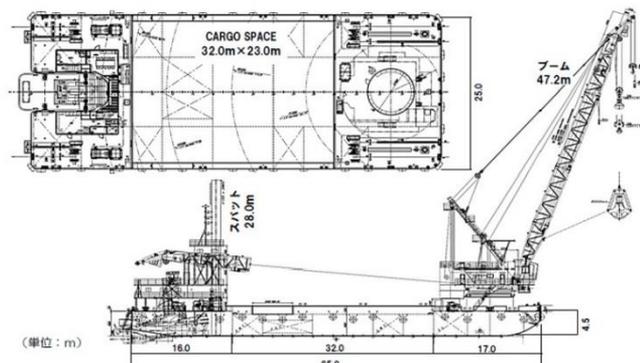
船種	全旋回400t吊起重機船兼グラブ浚渫船	
仕様	船体寸法	長65.0m×幅24.0m×深4.2m
	えい航船	押船:総トン数19トン-1,000*2PS
	揚重装置	最大荷重400t吊(ブーム22m)
	その他	Nox対応・ハイブリッド発電式

◎カーボンニュートラルへの対応
ハイブリッド蓄電システム

◎排ガス規制対応
No x 3次規制への対応

◎快適な居住スペース

◎安全性能の向上



34

最後に投資についてもお知らせをいたしたいと思えます。

弊社では 2001 テトラ号という 300 トン吊の起重機船を所有していますが、名前の通り、2001 年から稼働しており、約 20 年が経過しております。昨年度には傷みの激しいクレーン周りのリフレッシュを行いました。一方で将来に備え、後継船の検討も進めてきました。

環境性能に優れた、そして、一回り大きくさせた起重機船の建造を決定いたしました。現在、詳細設計の準備に入ったところでございますが、2025 年の 3 月の春には完成の予定でございます。

以上、雑駁でしたが、弊社の土木事業についてご説明させていただきました。

ご清聴ありがとうございました。

司会：細坂様、ご説明ありがとうございました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

質疑応答

司会：それでは、これから質疑応答とさせていただきます。

質問のある方、挙手を願います。いかがでしょうか。

それでは、ご質問も無いようですので、以上をもちまして、株式会社不動テトラ様の IR ミーティングを終了いたします。

本日はみなさま、ご参加いただき誠にありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

